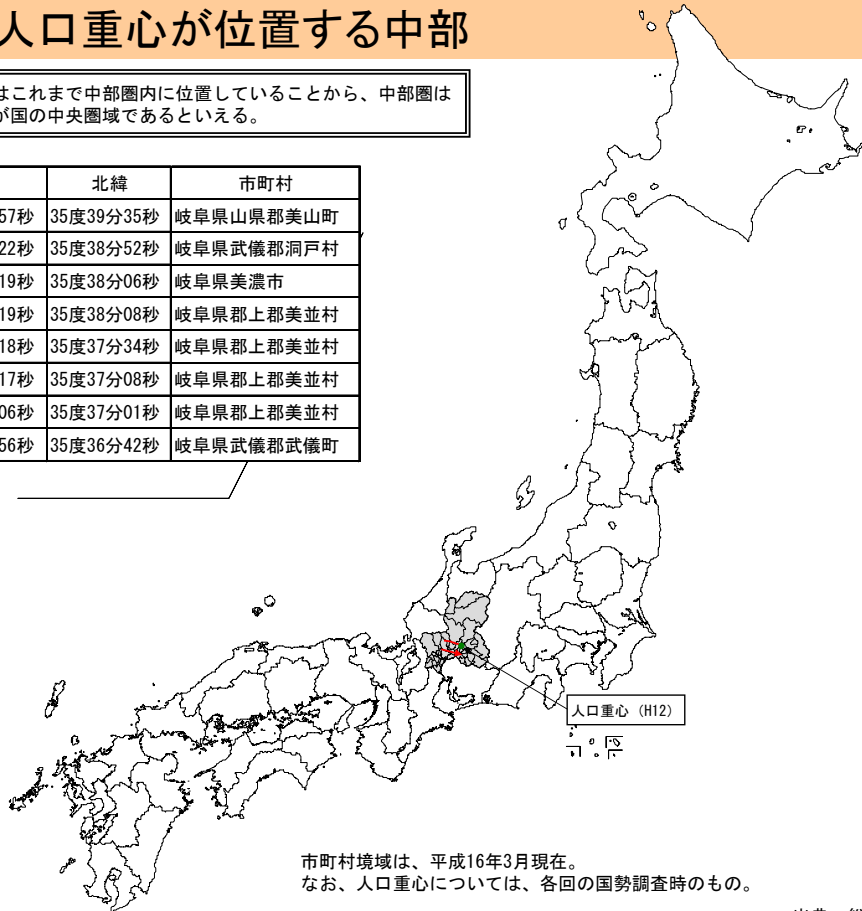


中部の特性・役割など

○全国の人口重心が位置する中部

わが国の人の重心はこれまで中部圏内に位置していることから、中部圏は人口配置でみたわが国の中央圏域であるといえる。

| 年次 | 東経 | 北緯 | 市町村 |
|-------|------------|-----------|-----------|
| 昭和40年 | 136度45分57秒 | 35度39分35秒 | 岐阜県山県郡美山町 |
| 45年 | 136度51分22秒 | 35度38分52秒 | 岐阜県武儀郡洞戸村 |
| 50年 | 136度53分19秒 | 35度38分06秒 | 岐阜県美濃市 |
| 55年 | 136度54分19秒 | 35度38分08秒 | 岐阜県郡上郡美並村 |
| 60年 | 136度55分18秒 | 35度37分34秒 | 岐阜県郡上郡美並村 |
| 平成2年 | 136度57分17秒 | 35度37分08秒 | 岐阜県郡上郡美並村 |
| 7年 | 136度58分06秒 | 35度37分01秒 | 岐阜県郡上郡美並村 |
| 12年 | 136度58分56秒 | 35度36分42秒 | 岐阜県武儀郡武儀町 |



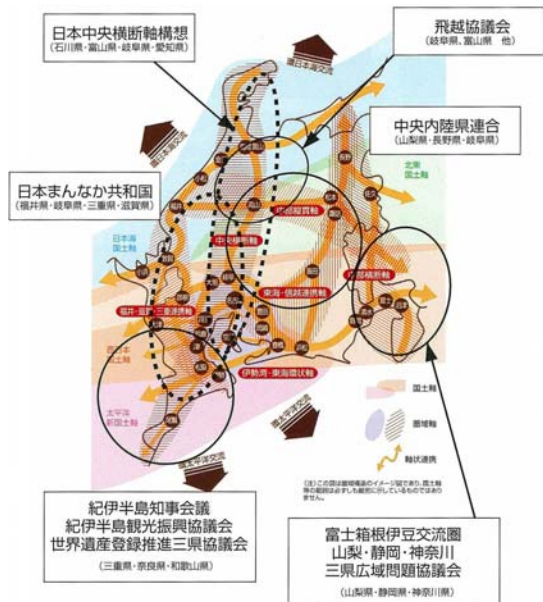
市町村境域は、平成16年3月現在。
なお、人口重心については、各回の国勢調査時のもの。

出典：総務省統計局HP (CENSUS PARK)

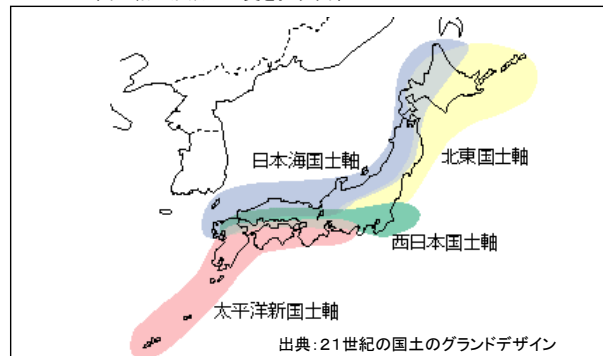
○国土の東西軸と南北軸の結節点、東西交通の要衝

中部圏は国土の東西軸と南北軸が結節しており、全ての国土軸形成の一翼を担う重要な圏域である。
また、東西自動車交通の骨格的な役割を担う東名・名神高速道が通過するなど、東西交通の要衝としてわが国の様々な社会活動を支える重要な圏域でもある。

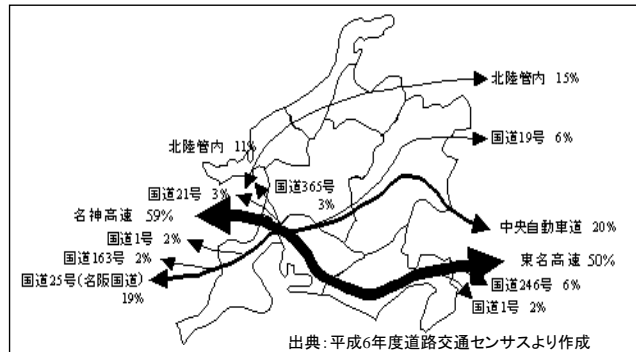
●世界に開かれた多軸連結構造のイメージ



●全ての国土軸の形成の一翼を担う中部



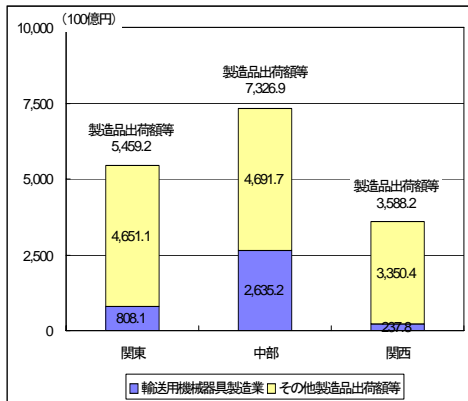
●東西自動車交通の骨格的役割を担う東名・名神高速道



〇わが国の産業を支えるモノづくり産業の集積地

中部圏は自動車産業を中心とした企業が集積しており、わが国の産業を支える重要なモノづくり拠点を形成している。

●圏域別製造品出荷額等 (H16)



関東：埼玉・千葉・東京・神奈川
 中部：愛知・岐阜・三重・長野・静岡
 関西：京都・奈良・大阪・兵庫

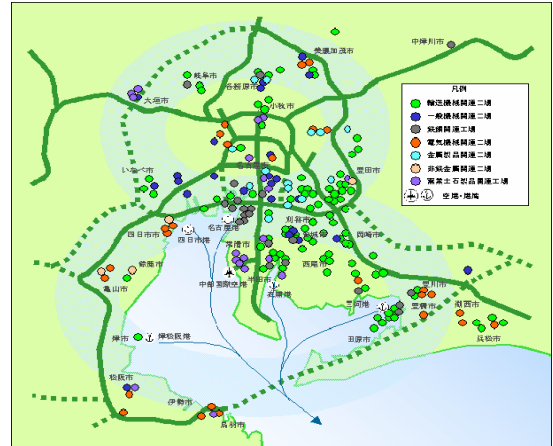
出典：工業統計

〇中部5県の全国移出量に占めるシェア

| | |
|----------|------|
| 自動車 | 58.1 |
| 自動車部品 | 54.0 |
| その他の窯業品 | 49.0 |
| 陶磁器 | 40.8 |
| その他の輸送機械 | 38.5 |
| 精密機械 | 30.2 |

※全国移出量が10,000トン以下の品目は除く。

●中部の企業立地



■凡例の詳細

- 輸送用機械関連工場：自動車、自動車部品、航空機部品、鉄道、等
- 一般機械関連工場：工作機械、建設機械、等
- 鉄鋼関連工場：特殊鋼材、棒鋼、鋼管、等
- 電気機械関連工場：制御機器、モーター、デジタルカメラ、テレビ、パソコン、等
- 金属製品：ばね、ガス機器、等
- 非鉄金属：電線・ケーブル、光ファイバー、等
- 窯業土石製品：タイル、洋食器、ファインセラミクス、ガラス、等

出典：中部経済産業局「中部のデータブック2006」を参考に作成

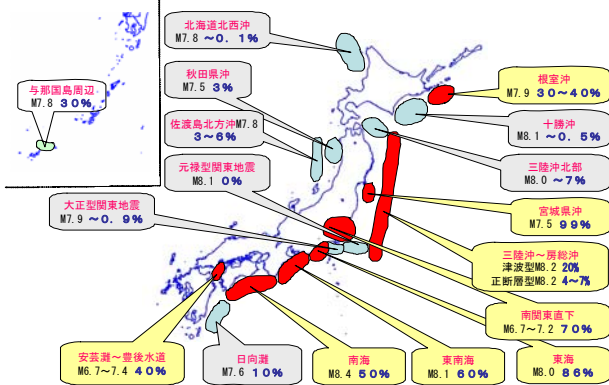
〇中央アルプスなど優れた自然資源・環境の宝庫

中部圏には、中央アルプスに代表される山岳地帯とそれらを背景とした森林資源を有しており、木曾三川などの河川や伊勢湾や遠州灘といった海洋資源など豊富な自然資源・環境を有している。

出典：「インターネット自然研究所」ホームページ（環境省）、
 「生物多様性センター」のホームページ（環境省）、
 「国土交通省中部地方整備局沼津河川国道事務所」ホームページ

○東海地震など大規模災害発生の危険性

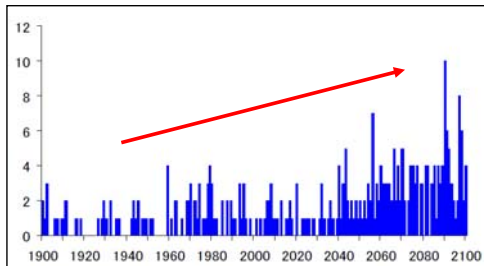
●今後30年以内の地震発生確率と規模



※海溝型地震の長期評価(2005年1月1日算定値、平成17年4月13日現在地震調査研究推進本部発表)を基に河川局にて作成

中部圏は東海・東南海・南海地震等の広範囲な被害が予想される大地震が近い将来に発生する恐れがあり、甚大な被害をもたらす恐れがある。
また、地球温暖化などの自然環境変化に伴い、局所的な豪雨による被害などが多発している。

●日本の夏季(6~8月)における豪雨日数の変化(~2100年)



出典) 環境省「地球シミュレータによる最新の地球温暖化予測」

●近年の中部の被災状況

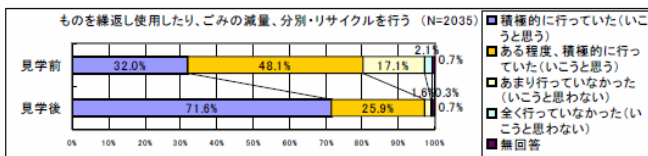
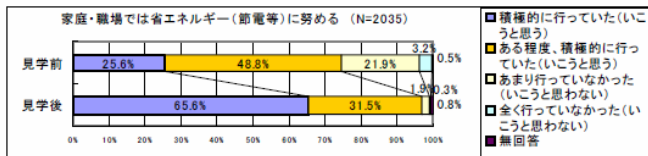
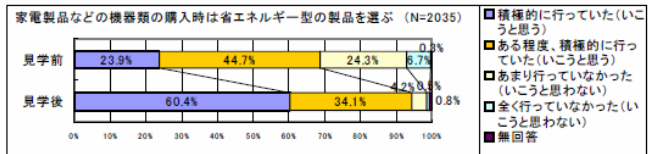
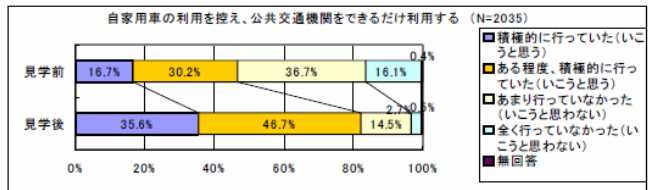


○愛・地球博の開催とその理念の継承

2005年に環境をテーマに開催された愛・地球博の開催地責務として、環境負荷低減への取組を進めることが求められる。



●博覧会見学前後の参加者の環境意識の変化



※アンケート対象者は全国の住民を対象
出典：(財)2005年日本国際博覧会協会